

# 中 北 海 道

## 現代俳句協会

### 会 報

91号

令和3年  
4月6日発行

座が普及拡大し俳句を学ぶ人が増え、筆者の所属俳誌の主宰は受講生四十人以上の講座を四つ持ち多くの有力同人を育てたという。また、内閣府の資料によ

ると昭和三十年代からの家電製品の普及が家事労働時間を減ら

し、女性の学習意欲の向上をもたらし、学習講座の普及と相まって現在においても俳句界に女性が多い理由だろう。経産省の調査では平成中期における民間講座は八割が女性で占められている。即ち、これらの社会構造の変化が重なり昭和期から俳句人口の大きな増加があり、平成初期以降からはその主体となった人たちの高齢化が進み自然減少して今に至っていると考えられる。減少が始まり四半世紀経っている現在、俳句人口の減少傾向には抑制がかかっていると考えられる。

さて、近年は俳句に関わる社会的な条件が大きく変化し、一般の人が俳句に関わるきっかけは新聞・雑誌・学習講座のほかにテレビやインターネットも加わり、社会的関心も高い。俳句人口の増加に繋げる好機ともいえるのではないか。



齋藤 雅美

### 社会の変化と俳句

俳句は今、世間的にはブームといわれるが、一方で結社や俳句会のメンバーは減少している。筆者が俳句を始めた平成初期の句会には三十人以上も集まったが、近年は十人ほどである。現代俳句年鑑の出句者数は最近十年間で三十九%減少し、北海道俳句協会の会員数は同期間で三十五%減少している。全国的にも平成期の三十年は俳句人口の減少が続いてきたようだ。昭和期からの動向を見ると、昭和三十年設立の北海道俳句協会の会員数は、当初三百人前後だったが昭和四十年代から増加し続け四半世紀後の平成五・六年には最大の千七百人余にまで達した。全国的には昭和四十年代から平成にかけて公共・民間の生涯学習講

# 令和三年度

## 総会の記

近 藤 由香子

R3. 2. 6  
於 かでる2・7

本格的な春の到来を予感させる霏混じりの雨の一日、十九名の出席をえて今年度の総会が例年通り開催された。昨年の春より続く新型コロナウイルス禍の中、すり合わせは困難を極め、最終的に総会のみ開催とする運びとなった。

換気のため窓とドアを開けたまま、Fよしと事務局長の司会のもと、冒頭に昨年逝去された方へ黙祷が捧げられた。続く五十嵐秀彦会長の挨拶では、皆様の会費をお預かりしての活動などで昨年度の報告と今年度の予定を諮ることは責務であること、この空白の一年間「座の文芸」である俳句にとっての「座」とは何かと問われたこと、文芸の孤独性などの含蓄ある話があり、スペイン風邪の歴史を引用してこれからの明るい展望で締められた。

引き続き出席者十九名・委任状七十五名の議決権報告の後、議長に佐藤和則氏が選出され議

事に入った。令和二年度の事業報告では、これまで総会新年交流会が開かれたすみれホテルの廃業に伴う新たな会場探しの必要性が提示された。決算報告は欠席の高畠葉子氏に代わって事務局長が説明、続いて齊藤雅美監査委員が書類を郵送という、コロナ禍ならではの監査状況を報告した。その後令和三年度の事業計画、予算案へと進み出席者全員の拍手で承認された。

それまで円滑に議事を進めて来た佐藤議長が、新年交流会の無き本大会の状況をユーモアたつぷりに述べ、座を和ませたところで議事を終えた。最後は再び会長の挨拶で、異例ずくめの令和三年度の総会が滞りなく終了となった。



## 令和3年度中北海道現代俳句協会 事業計画(案)

日 程	事 業 計 画	
1月29日(土)了	第21回中北海道現代俳句賞 選考委員会 コロナ対応の為、選考委員会は紙上にて開催 応募総数 24編〈西村 山憧氏に決定〉	組 織 活 動 部 顕 彰 係
2月6日(土)了	令和3年度定期総会(新年交流会は中止) 13時からかでのる2・7 1030室 札幌市中央区北2西7	事 務 局
4月4日(日)了	第30回中北海道現代俳句大会(懇親会は中止) 13時からかでのる2・7 520室 札幌市中央区北2西7 講演:月岡 道晴氏(歌人・國學院大学北海道短期大学部教授) 演題:「書物と文体から見る日本文学史」 出句締切:1月12日(火)	事 業 部
9月4日(日) 実施予定	俳句研究交流句会 かでのる2・7または教育文化会館 ※紙上句会の可能性有	組 織 活 動 部
8月より	第22回中北海道現代俳句賞 募集 締切:12月15日(水)当日消印有効	組 織 活 動 部 顕 彰 係
そ の 他	会報 第91号:4月 第92号:8月 第93号:12月発行 「一人一句集」4月、会員住所録8月発行予定 幹事会 年6回実施予定(奇数月) 三役・顧問・中北海道現代俳句賞選者の会 年1回実施予定	広 報 部  事 務 局

### 現在の役員・幹事構成

会 長	五十嵐 秀彦	
副 会 長	石 本 雪 鬼	亀 松 澄 江(事業部兼任)
事 務 局 長	F よ し と	
監 査 員	平 尾 知 子	齋 藤 雅 美
顧 問	辻 脇 系 一	
参 与	横 山 い さ を	
会 計	高 畠 葉 子	
総 務 部	中 田 琢 志(事業部兼任)	
	菅 井 美 奈 子(新)	阿 部 満 子(新)
事 業 部	林 冬 美	遠 藤 静 江
	金 子 真 理 子	
組 織 活 動 部	原 田 昌 克	瀬 戸 優 理 子(顕彰)
	鹿 岡 真 知 子	近 藤 由 香 子
広 報 部	青 山 酔 鳴	江 草 一 美

#### 中北海道現代俳句賞選者

五十嵐 秀彦  
石 川 美智子  
鈴 木 きみえ  
永 野 照 子  
松 王 かをり  
横 山 いさを  
渡 辺 のり子

#### 中北海道現代俳句協会 会費納入の御願い

当会年会費2千円の  
納入は振込となっております。  
手数料のご負担  
もお願い申し上げます。

# 第21回中北海道現代俳句賞受賞作品



受賞者 西村 山憧氏 プロフィール  
1943年 妹背牛生まれ。札幌市在住。  
1977年 「氷原帯」入会 1984年「像」入会  
1989年 「粒」入会 1991年像賞受賞  
1994年 氷原帯賞受賞  
2008年 「氷原帯」編集長(2012年退任)  
北海道俳句協会事務局次長(2018年退任)  
2020年 札幌市民芸術祭奨励賞(俳句部門)受賞  
現代俳句協会会員 北海道俳句協会常任委員

## 花吹雪

生きるにも死ぬにもカ木の根明く  
人体のどこも鋭角木の芽どき  
芽吹き急膨らんでくる水の音  
刃物研ぐ霞の衣裂くために  
万歩計つけ陽炎になりに行く  
人の世に紛れて咲けり梅さくら  
花吹雪手話の余白を埋めつくす  
K点を越えるつもりやしやぼん玉  
我に妬心見抜いておりぬ濃紫陽花  
緑陰から戻って来ないブーメラン  
虹二重人間だけが嘘をつく  
点線で夕焼切り取りポケットに  
生きるとは傷を負うこと遠花火  
彼の世へと飛び立つ兆し糸蜻蛉  
折り鶴を解いて鎮める終戦日

## 西村山憧

少年の胸にクルスや夏果てる  
臍の昏きところに遠かなかな  
桃齧る性善説を貫いて  
沈黙のあとの狂躁ねこじやらし  
絵日記に戻る途中の赤とんぼ  
秋蝶にかすかな狂気兆しけり  
胡桃割る君の秘密を知りたくて  
手妻師の早業つるべ落としかな  
満月のどこかが欠けてゆく不安  
これよりは神の領域すすき原  
メールから零れる絵文字小鳥来る  
木の実降る父を許すという課題  
帰り花二花三花そしてジャズ  
昨日より小さな鍵穴寒の入り  
磔刑は俺と樹氷とキリストと

# 令和2年度 第21回 中北海道現代俳句賞一次選考結果

番号	作 品 名 ( 作 者 名 )	五十嵐 秀彦	鈴木 きみえ	永野 照子	横山 いさを	渡辺 のり子	石川 美智子	松王 かをり	点数
1	花 吹 雪 (西 村 山 憧)		○	○		○	○	○	5
2	逢 ひ た く て (朝 月 春 陽)					○			1
3	表 札 (安 田 中 彦)	○							1
5	ガ ラ ス の 人 (F よ し と)		○						1
9	秋 桜 (岡 本 順 子)						○		1
10	ブ ッ ク エ ン ド (坂 本 眞 紅)		○	○	○			○	4
11	抱 卵 期 (亀 松 澄 江)				○				1
13	初 山 河 (大 河 原 倫 子)			○	○	○	○	○	5
14	通 奏 低 音 (近 藤 由 香 子)	○							1
21	入 道 雲 の 背 骨 (福 井 た ん ぼ ぼ)	○							1

## コロナ禍の中での選考

選考委員長 五十嵐秀彦

新型コロナウイルス感染の拡大という状況下、選考会の開催が困難となつてしまった。他団体の様子を見ても一カ所に集まつての検討会の開催は見送られており、私たちも今回は顔を合わせずの選考会は見送らざるをえないと判断した。メールやFAXを使い選考を進める中でどうやって賞のレベルを落とすことのない結果を出すか、顕彰部担当者も選考委員も最大限の努力をしたはずである。できるだけ通常の選考会に近いやり方で作品の絞り込みを図ったが、歯がゆさを感じた委員もいたことだろう。

応募作は二十四編。まず一次選考の結果として高点の作品が三編あった。その段階で得票数が拮抗しており、あらためてこの三編で再投票を行った。万一点が割れたらその先どのような進めたらよいか、という不安も正直あった。しかし別表のとおり結果は「花吹雪」が文句なしの評価を集めた。本来であれば各委員が推薦理由を述べ、質疑を経て決めたいところでは

あった。しかし結果が動くことはない判断し受賞作が決定したわけである。

私たち選考委員はこの結果に自信を持っている。「花吹雪」の作者の西村山憧さんは十七回目の応募で掴んだ栄冠であり、選考委員会を代表して祝意を述べたい。

## 受賞に相応しい三編

五十嵐秀彦

一次選考で私が選んだ三編は「表札」「通奏低音」「入道雲の背骨」であった。この三作に強い表現意欲を感じたのではあるが、ほかの委員の共感を得られなかったのは残念。

得票数から有力三編が浮かび上がった。「花吹雪」「ブックエンド」「初山河」。あらためて仕切り直しでこの三編に向き合ってみた。なるほどどれも力作だ。

平均点の高さという点では①「花吹雪」がひとつ抜けているように思えた。

朧の昏きところに遠かなかな

桃齋る性善説を貰いて

メールから零れる絵文字小鳥来る

印象的であるがどこか手慣れた表現が散見され、若干気になった。

⑬「初山河」は日常性を重視しながらしなやかなレトリックによる美しさがあつた。共鳴句は次の句。

夜濯や星空少しづつ巡る

銀河系の片隅の家葱刻む

梟や闇の幾夜を見て来たる

しかし中で「象」をモチーフにした三作は、試みではあるのだろうが若干首を傾げてしまった。

⑩「ブックエンド」は書籍をテーマとした連作三十句と言えるだろう。こうした試みは単調になりやすいが、本作は一句一句がそれぞれに変化に富んでいて読んでいて大変面白かった。

図書館の脚立に座るアロハシャツ

袋綴じ破れば夏のしづき浴ぶ

見返しに春のまだいるサイン本

しかし「大人買い」や「積ん読」などの言葉の選択はやや安易か。

三編はどれも優れており受賞する力があつたが、あえて順位を付けるとすれば、「ブックエンド」「初山河」「花吹雪」の順になった。最終選考の結果は「花吹雪」が最高点となった。私はこの結果を評価したい。

## 選考を終えて

石川美智子

正賞は西村山憧氏の「花吹雪」に決定した。杉野黙勇氏以来二人目の男性作家受賞とか。心よりお祝い申し上げます。

一次選考では次の三篇を推した。

① 花吹雪

西村 山憧

人体のどこも鋭角木の芽どき

桃齧る性善説を貰いて

木の実降る父を許すという課題

一句一句が独立して主張する。人間の持つ多面性が惜しみなく發揮され、共鳴句が多かった。特に「木の実降る」は知と情がバランスよく配され好きな句であつた。

② 秋桜

岡本 順子

うめさくらうつらうつらと許される

青芒背が高くて手がきれい

雪搔いてまた雪搔いてすとんと寝る

心の内をどのようにも表現できる器用さを持つていながら強引さが無い。「うめさくら」の柔らかさ、「青芒」の青春性、「雪搔いて」の俳味。抽斗の多い作家である。

⑬ 初山河

大河原倫子

初山河一頁めをかたく折る  
うしろだけ雨に濡れたる立葵  
文鎮に静かな重さ雪の夜

声高ではないのに言葉一つ一つが沁みてくる。思いを静かに詠む・それをこの作品群に教わつた。

最終選考に残つた⑩「ブックエンド」も大変魅力的であつた。

図書館の脚立に座るアロハシャツ

本棚に帰らぬ一冊十三夜

応募する場合、通底する一つのテーマがあるのは強みであり読み手も楽しい。その意味でこの一連の作品には古書店にいる心地よさを感じた。

次の方々の作品群にも佳句が見られた。安田中彦氏、亀松澄江氏、近藤由香子氏、平倫子氏、古川かず江氏、和佐尚子氏、青山醉鳴氏。初挑戦の方が多かったと聞く。来年が楽しみである。

## 選考の難しさ

鈴木きみえ

応募作品二四篇。今年度はコロナ禍で選考は全て通信で行われたが、受賞者がきまり、ほっとした。

しかしそれぞれに佳句が多く選ぶ

ことの難しさを痛感した。

一次選考では次の三篇を推した。

① 花吹雪 西村 山憧

朧の昏きところに遠かなかな

秋蝶にかすかな狂気兆しけり

花吹雪手話の余白を埋め尽くす

「花吹雪」は、あまり破綻のない一連で、俳句の骨法をよく心得ている作者と思う。どの句にもテーマがあり、發送の転換等に惹かれた。最後の句の潔さは捨てがたい。一七回の挑戦で、男性の受賞者として二人目となった。見事である。心よりお祝い申しあげ、ますますのご活躍をお祈りしたい。

⑩ ブックエンド 坂本 眞紅

大辞林ことばの森に紙魚さまよう

見返しに春のまだいるサイン本

あとがきの頁にひそむ鎌鼬

表出が平明で、読み手に安心感を与える。二〇句をひとつのテーマにまとめた意欲をかいたい。しかし推敲不足の句も散見された。来年度を期待したい。

⑤ ガラスの人 Fよしと

人間をくりぬいてみる菜の花忌

生涯の途中のように水中花

八月の鞆の中のラプソディー

全体的に発想が斬新であり、硬く脆く透明な「ガラス」絵の様な人間を、世の中を詩的にとらえている。再度の挑戦を望む。

⑬ 初山河 大河原倫子

夜濯や星空少しづつ巡る

風花や未完の馬を耀かす

平均的に佳句の多い一連であった。日常の生活の中から生まれた句それぞれが生きている。

③ 表札 安田 中彦

水際なる中也の釦風死せり

④ 雲の上 平川 靖子

流木はノアの箱舟冬かもめ

右の二人の作品も印象深かった。

## 自選に一考を

永野 照子

二十四編の応募作の中から番号順に①「花吹雪」⑩「ブックエンド」⑪「初山河」の三編を選んだ。

① 花吹雪 西村 山憧

感覚と思考のバランスの良さを感じた。一句一句にテーマがあり、中でも具象表現を重視する心象性の作品に共感した。答えの見える作も見られたが作句

姿勢に一貫性があり、ぶれがなかった。

花吹雪手話の余白を埋め尽くす

人の世に紛れて咲けり梅さくら

沈黙のあとの狂躁ねごじやらし

⑩ ブックエンド 坂本 眞紅

ほとんどもを「本」とその周辺を素材とした作品で纏めた力量を評価した。適切かどうかと思う措辞も見られたが、知識に裏打ちされた視点と季語との距離感がよく詩情ある作品になった。

医学書の革表紙徹しずかなり

袋綴じ破れば夏のしづき浴ぶ

花布の褪めゆく詩集枯蠅螂

⑬ 初山河 大河原倫子

天上に象の足音する厄日

文鎮に静かな重さ雪の夜

夜濯や星空少しづつ巡る

などの日常のなかで感じ取ったかすかな違和感などを確かな言葉として書き留めた静かで力強い作品と、抒情見溢れる作品に心ひかれた。丁寧な言葉志す作句に好感を持った。

選考の結果は西村山憧さんが受賞の栄を手中にされた。本当におめでとうございます。その他に、

③ 表札 安田 中彦

水馬水面に時間とどまれり

心太愛のごときが絡みあふ

⑤ ガラスの人 Fよしと

煮凝の虚構のごとく沈殿す

噴水の中身のように暮らしおり

⑨ 秋桜 岡本 順子

この家に長く住みたる花はこべ

たましいへ真つ直ぐ届く寒月光

等のそれぞれに注目したが、推敲不足な作の混在が残念であった。来年度に期待したい。

## 選考所感

松王かをり

今年はコロナ禍という非常事態の中で紙上選考会となった。昨年同様の二十四編の応募作品があり、その中から私は、一次選考で、「花吹雪」「ブックエンド」「初山河」の三編を選んだ。そして、その三編が残った。

後でわかったことであるが、受賞なさった西村山憧さんをはじめベテランの方々の中に、今回初めて応募して下さった方が七人もいらっしやったことは、とても心強いことである。どの作品にも作者の熱い思いが籠っていて、大いに楽しませていただいた。

まずは、応募してくださったみなさんに御礼を申し上げたい。

① 花吹雪 西村 山憧

花吹雪手話の余白を埋めつくす

K点を越えるつもりじゃほん玉

虹二重人間だけが嘘をつく

一句目は、「花吹雪」という具体的な景と、「手話の余白」という抽象とがうまく溶け合った巧みな句。次の句は、「K点」というスキージャンプ競技の用語を「じゃほん玉」に使うという俳諧味。三句目は「人間だけが嘘をつく」という、ある意味お決まりの言葉を使いつつ、「虹二重」という季語で俳句に昇華させたところなど、表現の仕方に多様性があった。そして、俳句という制約の多い詩型の中で、なんとか自分の思いを表現しようという心意気を高く評価した。ご受賞、本当におめでとうございます。

⑬ 初山河 大河原倫子

冬ざれや口に含める釘を打つ

文鎮に静かな重さ雪の夜

手堅く作られた、とても安定感のある、三〇句であった。作者の持ち味である、

静謐で確かな言葉遣いに心惹かれた。

⑩ ブックエンド 坂本 眞紅

八月の本屋のポップ墓標に似

見返しに春のまだいるサイン本

「本」というテーマに絞って三〇句を構成した点、しかも単調に陥っていない点を評価した。ユニークで魅力的な句も多かった。

## 選後評

横山いさを

応募作品二四編を読み通して九編をチエックし、その中から五編を残し、最後に三編を選ぶという過程をたどった。

三編の中で最も推したかったのは⑩「ブックエンド」で、活字好き、本好きということが全作品に瀾漫していて、句作品がそれぞれ面白く、作者の人生が反映されているところに魅かれた。古書店主で直木賞作家の出久根達郎の世界に浸っている心地よさは、選者によっては趣味的に過ぎると感じられたかもしれない。

⑩ ブックエンド 坂本 眞紅

だんまりの閉架書庫ひぐらしの刻

蛇の衣書店カバーのコレクション

緑蔭に百円の買古本市

など、ひとつの色合いで染め抜いてし



まったのは、この世界にそれだけ入れあげているということ、その徹底ぶりに魅かれてしまった。

あとがきの頁にひそむ鎌鼬

など、難しい季語が難なく詠まれていることにも注目した。

① 花吹雪

西村 山懂

花吹雪手話の余白を埋め尽くす

我に妬心見抜いておりぬ濃紫陽花

絵日記に戻る途中の赤とんぼ

など、詩心に魅かれるものがあつた。各句の完成度も高く、力強さを感じたが、最後に

磔刑は俺と樹氷とキリストと

が出てきて、二の足を踏むことになつた。

⑬ 初山河

大河原倫子

母の忌の母ひとり占めゆすらうめ

夜の秋母の齢へ母似の手

母の忌の支度こまごま草の花

など、母恋の作品群が評価の割れるところだが、感傷的などころに魅かれるものがあつた。象の句群も読み応えがあつた。

⑪ 抱卵期

亀松 澄江

クレヨンを全色使い抱卵期

利久筆筒どこに置いてもかなかななどに詩を感じた。

## 「定型」の美しさ

渡辺のり子

溢れる思いを凝縮して、五・七・五という定型に流し込む。この苦悶の過程に俳句の神髄があるのかもしれない。今回の受賞作「花吹雪」は、「定型」が醸し出す美しさを再確認させてくれる見事な作品であつた。

① 花吹雪

西村 山懂

満月のどこかが欠けてゆく不安

これよりは神の領域すき原

刃物研ぐ霞の衣裂くために

万歩計つけ陽炎になりに行く

彼の世へと飛び立つ兆し系蜻蛉

など、「定型」が醸し出す日本語の音感の心地よさを堪能させてくれる句が並んでいる。受賞作として一歩抜きんでた感があつた。

⑬ 初山河

大河原倫子

初山河一頁めをかたく折る

啓蟄や遠野の民話ぞろぞろと

碁石置くびしりびしりと白障子

静謐な雰囲気の中に、作者の凜とした姿勢がにじみ出ている秀句が多かつた。

② 逢ひたくて

朝月 春陽

人骨の埋もれる大地ちちる鳴く  
もののけが会議をひらく夏至夕べ

鳥兜妖しき汝の名を告げよ

掲句第二句、第三句のように、さらに幻想世界を表出する俳句を今後も育てていってほしい。

以上、私が一次選考で推薦した三作品である。

その他、惹かれた作品を掲げる。

⑩ ブックエンド

坂本 眞紅

炎昼やぼってりと押す蔵書印

流行風邪書にも耳喉口のあり

⑬ 消防車

青山 醉鳴

マネキンのやうに諸肌脱ぎ虚ろ

⑭ 通奏低音

近藤由香子

癌告知明日へ寒の紅を引く

⑱ 冬の虹

古川かず江

紫蘇の実しごく零れだす歳月

⑳ 入道雲の背骨

福井たんぽぽ

コスモスを擦るチェーンソーが要る

三十句を揃える自選の難しさ。多くの会員の挑戦が楽しみです。

礎

北 光 星

略歴 大正十二年北見市生まれ。北  
竜町の大工の家の養子となる。昭和  
二十三年氷原帯に入会、細谷源二に  
師事。大工俳句で脚光を浴びる。四  
十七年「道」を創刊主宰。句集は氷  
原帯から発行した「一月の川」をは  
じめ九冊。平成四年に鮫島賞を受賞。  
平成十三年七十八歳で没。

大年の杭を打つ頬まつかにし  
松伐られその夜の雪に包まるる  
錐もめば錐に寒燈のぼりくる  
鳥帰る渡り大工のわがうえを  
激突の貨車が近づく男の夏

田湯 岬氏 抄出

〔青のフロント〕 佳句抜粋

冬うらら塗り絵の枠をはみ出して 古川かず江  
雪女郎くちびる使ひ切りたる夜 栗山 麻衣  
春愁や人魚開いて食べ尽くす 青山 醉鳴  
春寒し蓄は黙の小宇宙 伊奈 青人  
加湿器のカルキ剥がして 中村みずほ

幹 事 会 報 告

幹事報告会 R1.1.19(木) 於かでる2.7 540号室  
議題

- 令和3年度定期総会議案について(事務局)
    - 日時 令和3年2月6日(土)13時30分から
    - 会場 かでる2・7 1030号室
    - 総会資料の確認、当日役割分担(受付)
    - 幹事会集合12時45分 受付開始13時
    - ※コロナ対策にて、昨年末に懇親会の中止を決定済
  - 第21回中北海道現代俳句賞(組織活動部顕彰係)
    - 応募数 24 篇
    - 選考委員会 かでるでの開催予定を紙上審査に変更
    - 選考委員 五十嵐一石川・鈴木・永野・松王・横山・渡辺
  - 「一人一句集」(広報部)
    - 原稿作成 青山 会報91号に同封
    - 校正 江草・青山・Fよしと
    - 印刷・製本 4月上旬 会場 かでる2・7
  - 会報91号(広報部)
    - 発行予定 4月上旬
    - 巻頭言、総会記 筆者打診中
  - 第30回中北海道現代俳句大会(事業部)
    - 日時 令和3年4月4日(日)13時から
    - 会場 ホテルサンプラザ
    - 大会費1,000円 懇親会会費6,000円
    - ※懇親会中止の場合は かでる2・7
    - 投句数 約450句(1/21現在)
    - 講演「書物と文体から見る日本文学史」  
月岡道晴氏(國學院大学北海道短期大学部教授)
  - 第30回 北海道現代俳句大会(事務局)
    - 主管 東北海道現代俳句協会
    - 日時 令和3年6月13日(日)
    - 場所 とかち館 帯広市西7条南6丁目2
    - 特別講師 現代俳句協会会長 中村和弘氏
    - 大会出句 2月中旬～締切4月20日前後
- 出席者 一 五十嵐・石本・亀松・青山・江草・遠藤・金子・瀬戸・中田・林・Fよしと 以上11名

幹事報告会 R3.3.18(木) かでる2.7 540号室  
議題

- ※新幹事紹介 阿部満子・菅井美奈子両氏
- 第30回中北海道現代俳句大会について(事業部)
    - 総投句数474句(124名投句)
    - コロナ対策にて、懇親会中止を決定
    - 会場変更 かでる2・7 520号室→変更案内発送
  - 第30回北海道現代俳句大会について(事務局)
    - 日時 令和3年6月13日(日)  
13時半開会 懇親会は中止
    - 会場 とかちプラザ 視聴覚室(会場変更)
    - 出句 令和3年4月20日(火)締切
    - 参加者の件
  - 令和3年度俳句研究交流句会(組織活動部)
    - 日時 令和3年9月4日(土)または紙上開催
    - 会場 かでる2・7 または教育文化会館
    - 詳細は7月の幹事会にて
  - 第21回中北海道現代俳句賞(組織活動部顕賞係)
    - 受賞者 西村山憧氏に決定
    - 作品は会報91号に掲載し、大会時印刷物配布
  - 会報91号(広報部)
    - 3月2、18日 校正 4月6日(火)発行発送予定
    - 会費の振込用紙等発送時同封
  - 「一人一句集」(事務局・広報部)
    - 3月18日(木)印刷、製本 会報91号に同封
  - その他(事務局)
    - 第22回中北海道現代俳句賞 8月中旬より募集
    - 顧問・役員・選者の会の開催(期日未定)
    - 中北海道現代俳句協会名誉会員の件
  - 新会員推薦/募集(事務局)
    - 新会員への広報、一句集の送付
    - 会員動向 入退会の確認
- 出席者 一 五十嵐・石本・亀松・青山・阿部・江草・遠藤・金子・近藤・鹿岡・菅井・瀬戸・中田・林・原田・Fよしと 以上16名

## 第30回北海道現代俳句大会のご案内

- 1 日時・場所 令和3年6月13日(日)13時開場、13時半開会  
とかちプラザ 視聴覚室 TEL 0155-22-7890  
帯広市西4条南13丁目1(帯広駅南口)
- 2 特別講師 現代俳句協会会長 中村 和弘 氏
- 3 講師 特別選者・各地区代表選者
- 4 出句締切 4月20日(火)必着 出句2句一組1,000円(所定用紙)  
新作未発表作品に限る。何句でも可、前書き不可
- 5 郵送及問合先 085-0811 釧路市興津4-20-8 吉野喜代子(0154-91-2657)
- 6 参加費 無料※懇親会はありません

※コロナ感染対策のため大会中止の可能性があります。この場合選句を集計し作品集の作成・配布・顕彰を行います。

問合せ先: 東北海道現代俳句協会事務局・鮎橋郁香(0154-55-4588)

### 会 員 動 向

会員数 127名  
(令和2年2月28日現在)

### ◆事務局だより

本年の最初の行事は定期総会の開催でした。当日出席者と委任状にて過半数の議決権を頂き、無事終了出来ましたことをたいへん感謝いたします。このあとも中北海道現代俳句大会・俳句研究交流句会など恒例行事が控えておりますが、状況に合わせて無理をせず開催の予定です。会場や運営方法に度々変更があるかと思いますが、どうぞご了承くださいませようお願い申し上げます。

東京での現代俳句協会定期総会(三月二十七日)は三月初めに中止の連絡が参りました。また、帯広にて開催の北海道現代俳句大会(東北海道現代俳句協会主催)は大会・講演会のみ行い、懇親会は中止となりました。このページに案内を掲載しておりますので、出席可能な方は是非お運びください。

北海道俳句協会の本年度大会は六月六日、かでの2・7にて開催とのことです。席上、第四一回鮫島賞に選出された当協会の信藤詔子さんの作品「如雨露」が顕彰される予定です。ご報告とともに、信藤さんにお祝いを申し上げます。

(事務局長 Fよしと)

### 編集後記

今号より広報部長を引き継ぐことになりました。若輩者ではございますが得手のパソコンを駆使し、紙面の充実に努めたいと思います。皆さまにはご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

中北海道ゼロ句会を牽引した音無早矢・村上海斗両氏が社会人となりました。仕事と俳句の両立は大変かもしれませんが、新しい環境で詠まれる俳句を楽しみにしております。

「御破算で願ひましてはふきのとう」国兼よしこ。郊外では露の臺も顔を出していることでしょうか。この一年間苦しめられたコロナ禍も、そろそろ御破算にしてほしいものです。

我々広報部は、この春から青山酔鳴が部長となり新体制でスタートをきりました。パソコンを縦横に操り、会員の皆様に充実した紙面をお届け出来ませうよう努力致したいと考えております。

(江草)

### 「青のフロント」句会のご案内

日時 偶数月第2土曜日13～16時  
場所 かでの2・7 当季雑詠3句  
問合先 (011)852-7014 五十嵐

### 「中北海道ゼロ句会」のご案内

不定期開催 問合先 音無・村上  
ngh\_zero\_kukai@outlook.jp

発行人 五十嵐 秀彦  
発行所 中北海道現代俳句協会

〒064-0952 TEL 011-641-1007  
札幌市中央区宮の森2条8丁目1-18  
Fよしと方

編集人 青山 酔鳴

〒061-1354 TEL 090-3398-3457  
恵庭市島松旭町4丁目9-1

江草 一美

〒003-0838 TEL 011-874-3049  
札幌市白石区北郷8条3丁目6-36-703